

十年目の三・一一

「私たちの班は、高尾山の登山ルート毎に見られる、特徴的な植物について研究しました。…」前任校の第一期生が、成果発表会(本校の学習成果発表会のような行事)で行うポスターセッションのリハーサル中、それは起こりました。

二〇一一年(平成二十三年)三月十一日(金)十四時四十六分十八・一秒に発生したマグニチュード九・〇、発生時点において日本周辺における観測史上最大の地震が東北地方太平洋沖で発生し、それによる津波、およびこれに伴う福島第一原子力発電所事故による放射線漏れなどの大規模な地震災害であることから東日本大震災と呼称される一連の災害の始まりでした。東日本各地での大きな揺れは震度七から六におよび、大津波、火災等により、東北地方を中心に十二都道県で二万二千人余の死者(震災関連死を含む)・行方不明者が発生しました。これは明治以降の日本の地震被害としては関東大震災、明治三陸地震に次ぐ規模となりました。沿岸部の街を津波が破壊し尽くす様子や、福島第一原子力発電所におけるメルトダウン発生は、地球規模で大きな衝撃を与えました。

職員室に一番近い教室でリハーサルの指導をしていた私は、即座に職員室の設備を立ち上げ、緊急校内放送を流しました。「ただいま大きな地震が発生しました。これは訓練ではありません。室内にいる生徒の皆さんは、避難口を確保して、頭部を保護し、安全な体制を確保しなさい。近くに先生がいらっしゃる場合は、先生の指示に従いなさい。校庭で活動している生徒は、グラウンドの中央部、周囲に電線や電柱がないことを確認して頭部の安全を確保し安全姿勢を取りなさい。体育館で活動

している生徒は、窓ガラスや天井照明に注意して、頭部の安全を確保して安全姿勢を確保しなさい。これは訓練ではありません。先生方は、最寄り教室等の生徒の安全確保に努め、第二報の放送が入るまで、現状待機…」頭の中で整理しているつもりなのですが、どんな内容が口から出ているのかよくわからないまま放送したのを覚えています。後日緊急放送システムを点検していると、当日録音記録されていた自分の声が、平常よりもかなりうわずっていたのが印象的でした。

校内に残っていた中学生は当日登校していた百五十数名。高校生は部活動で残っていた三百数十名、先生と職員さんが七十数名、合計でおおよそ五百五十数名でした。地震発生直後から電車は全て運転を中止し、バスは地震発生後数時間は運行していたのですが、道路が渋滞してほとんど動かなくなってしまうました。家庭に連絡が取れた、徒歩通学の中学生と

高校生、自転車通学の高校生を帰宅させ、結局その日は、四百五十名以上が学校で一夜を明かすこととなりました。幸い水道・電気・ガスのライフラインはつながっていたため、トイレや非常食の暖め等はできたのですが、不安な一夜であったこと、そして、非常食のアルファ米を暖めることができず、そのアルファ米のわかめご飯がむやみにおいしかったことを、今でも覚えています。その後、二週間以上にわたって行われた、計画(輪番)停電や、交通機関のダイ

ヤの間引きなど、当たりの日常は、こんなにも簡単に崩れ去るのだということを思い知らされました。コロナ禍のまっただ中であつた本年度、十年前の大震災を思い、未だ当時の復興半ばである現地の状況を思うとき、一日も早い日常の回復を願ってやみません。そして、日常とは、当たり前にそこにあるものではなく、努力して作り上げ、積み上げてゆくものなのだと、いうことを心に刻みまし

**来週の予定:3月8日(月)~12(金)**

8日(月)は、6日(土)の学習総合発表会の振り替え休業日のため授業はありません。

日	曜	行 事
8	月	振り替え休業日 (1年生校外学習)
9	火	普通時程 時間割通り 1校時:道徳 (1年生振り替え休業日)
10	水	普通時程 時間割通り 清掃有り
11	木	普通時程 時間割通り ※一部授業変更あり
12	金	普通時程 時間割通り ※一部授業変更あり 5・6校時:総合

# 立志の集いから

## 代表生徒作文 1

「雨過天晴」

1組 生徒

僕は、今年一年の目標を表す標語として、「雨過天晴」を選びました。これは、「雨が過ぎて空が晴れる」ように、悪い状況がよい方向へ動くことのためです。

二〇二一年になった今も、コロナウイルスは広がり続け、重大な被害をおよぼしています。今後の学校生活がどうなってしまうのか、全く先が読めません。そのような中でも、僕は、「晴ればれしい」一年になるようにしたいと思っています。僕にとって晴ればれしい一年にするために三学期は、「勉強と遊びの両立」ができるようになりたいです。四月からは、中学校最後の一年なので、たくさん思い出を作りたいです。その中で、自分の将来へ向けての高校受験の勉強をしていきます。この両立が上手にできた

ら、「晴ればれしい」一年にできると思っています。三

学期は、この両立を意識して生活し、最高学年になるまでの準備期間にしようと思えます。

また、三年生になってから苦労しないように、今のうちから受験勉強をしていこうと思えます。

例えば、高校の過去問を解いてみたり、一・二年の学習を復習してみたり、今からでもできることは多いと思えます。

今年一年を「晴ればれしい」ものにするために、三学期は、今できることを探して、それをたくさん実行していこうと思えます。

「率先垂範」

1組 生徒

私は、今年一年、後悔がないように一日一日を大切にして過ごしていきたいです。そのために、自分の目標に向かって努

力し、達成できるようにしたいです。そして、その一つが率先垂範です。

私は、周りの目を気にしてしまい、自分の意見を主張することが苦手です。その性格を直すためにも、この言葉のように、自分が正しいと思ったことは、躊躇せず、先頭に立って行動し、模範を示すようになりたいです。しかし、そのためには自らその場

に依じて正しい行動をしなければなりません。それは、自分の成長にもつながると思うし、少しでもクラスの力になること

につながるはずで。そして、もう一つは、胆大心小です。この言葉の意味は、「大胆で、かつ細心であること、度胸は大きく、注意は細かく払うべきこと」です。私はこの言葉の意味を知ったとき、とても良い言葉だと思いました。度胸、すなわち物事を恐れない心をもって、失敗を恐れずに何事にも取り組みたいです。

かといって、準備を怠らなく、慎重に取り組んでいきたいです。私は、これを特に勉強で生かしてい

きたいと思っています。

最後に、私は今年の四月は中学三年生で、受験生となります。だから、本気で勉強に取り組み、一日一点でも良いから、点数を上げて苦手を無くす努力をしていきたいです。一生に一度しかない高校受験を大成功で終わらせたいです。

「継続は力なり」

2組 生徒

僕が、今回提出した標語は、『継続は力なり』です。なぜこの標語にしたかという点、僕は何事も継続させるのは、あまり得意ではないからです。小さなことでもそれを続けなければ分かる・理解できるはずですが、僕はそんなことはできません。勉強など集中しなければならぬところでは、誘惑に負けるだめなところもあり、上手くいかないこととすぐそっぽを向いて別のことに専念してしまうので、自分で決めた標語に対してしっかり反省をして今のうちに直していきたいです。

また、自分はほめられると伸びるタイプなので、周りの人にほめられるようなことをし続けたいです。ですが、それが続かないので日頃から続けられるように努力します。

高校受験は自分の人生が変わる大事な自分との戦いなので志望校に受かるように自分が決めた目標を変えずに勉強したいです。大人になってから、あんな高校じゃなければ、のように後悔なんか絶対したくないです。また、僕は仲の良い友達と同じ高校に行こうと固く約束をかわしました。自分が足をひっぱって台無しにはしたくないので、とにかく頑張ります。『僕は変わったんだ、もうあのころの僕ではない』と胸を張って言えるようになりたいです。だから有限な一年という短く重要な時を戦いきって楽しい人生を続けていきたいです。